NO. 9
May 2015

図書たより

明治大学中野図書館

図書館員オススメの本

【ジェレミー・ウェッブ編著『「無」の科学』SB クリエイティブ，2014】

この本は「無」にまつわるさまざまな科学のエッセイを集めたもので全部で 25 篇が収められている。「始まり」はビックバンから、その前は「無」であった。物理学では宇宙誕生から約 10 のマイナス 35 剰秒たったときに何がおきたかがわかるという！ 脳は普通に使っていない時のみ活動する領域(デフォルト・ネットワーク)があって、その時の方が脳はエネルギーを余計使う。何をしているかというと「夢想」や海馬と通信しあって、記憶を取捨選択して保存しているというのだ。数字 0 の話。16 世紀まで本格的に使われなかったなんて知らなかった。優れたサイエンスライターなどによって寄稿されたエッセイで一般向けに書かれている。総合数理学部のテーマとも通じているのでは？エッセイの内容を科学論文までたどって確認してみたら、すごくいい勉強になるに違いない。

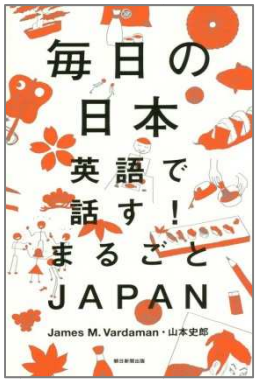
【大鹿靖明編著『ジャーナリズムの現場から』講談社現代新書，2014】

以前から「ジャーナリズムの危機」が叫ばれていたが、東日本大震災後の福島第一原発事故の報道で一般にまで顕在化した感がある。とくに現政権になってからテレビ・新聞・雑誌等のマスメディアは委縮し、批判的報道を自己抑制しているように見える。この本は調査報道ノンフィクションを手がけてきた大鹿靖明氏が、さまざまな分野の第一線で活躍するジャーナリスト 10 名を取材し、インタビュー形式でそれぞれのジャーナリストとしての生き様を描き出したものだ。現在のメディアの姿勢について語られている部分もあるが、多くがジャーナリストになった経緯や一人前になるまでの鍛えられ方、企業や組織内での生き方、ジャーナリストとしての矜持について割かれている。なかでも長谷川幸洋氏（東京新聞論説副主幹）のジャーナリストでありながら政権の政策にかかわる規制改革会議委員に参画する話や、大治朋子氏（毎日新聞エルサレム支局長）が防衛庁関連のスクープが実は「記者が日常の中でごく普通に目にしているようなこと」と語る話が興味深い。

【T. E. カーハート著『パリ左岸のピアノ工房』新潮クレスト・ブックス ，2001】

海外の上質な小説やノンフィクションを厳選して届けてくれる新潮クレスト・ブックスから一冊ご紹介しよう。50 歳を機にフリーライターに転身しパリに住みついたアメリカ人著者が、カルチェ・ラタンで見つけたピアノ工房について語る。タイトルにあるパリ左岸とは、セーヌ川の進行方向を向いて左手側のことで、学生街として有名なカルチェ・ラタンもその地区にある。はじめは余所者としてなかなか受け入れてもらえなかった著者が、ひょんなことから、店の奥の部屋にあるピアノを見せてもらうこととなる。この工房は、古今東西の名器が集まり、ピアノをまるで生き物のように扱う職人の手で再生されたピアノが、やがて次の持ち主へと繋がれてゆく場所であったのだ。それぞれのピアノには、歴史や思い出がある。ピアノに対する職人の思いや豊かなものの考え方にも触れられる名著。たとえ今は弾かなくなってしまっていても、ピアノや楽器が好きな人におすすめしたい一冊だ。

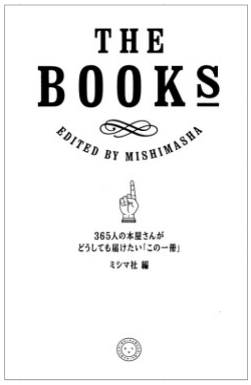
【James M. Vardaman, 山本史郎著『毎日の日本 ： 英語で話す!まるごと Japan』朝日新聞出版 , 2015】



中学生の頃、英語の教科書に載っている会話や物語を、暗唱できるまで何度も何度も聴いて、書いて、声に出していた思い出がある。高校に進学すると、覚えるべき語彙数が増え、文章も長くなったため許容能力を超えやめてしまった。短い話でもよいのでコツコツ覚えていたら、英会話の引き出しがどれほど多くなっていたことだろうと思う。

著者は、日本に住んで40年、大学で教鞭をとり、「優れた日本の特徴の数々をうまく説明できない日本人を見るにつけ、ずっともどかしく思ってきました。」「日本人の英語学習において、日本について英語で説明するための学習がおろそかになりすぎてはいないでしょうか」と警鐘を鳴らす。日本文化の基本的な72の事柄が200語前後の英語で説明されており、暗唱に適した長さで、外国の方へ日本文化の概要を説明するのに十分な内容となっている。本書の英語表現を参考に、自分なりの説明文を作ってみるのもよいだろう。日々のトレーニングあるのみ！

【ミシマ社編著『The books ： 365人の本屋さんがどうしても届けたい「この一冊」』ミシマ社 , 2012】



「この本だけはなにがなんでも読んでほしい……！」北海道から沖縄まで、全国の本屋さん365人の”オススメの1冊”が集結！「1月 ： 1年のはじまりは名作で」「5月 ： 5月病を吹き飛ばす」「7月 ： 夏、童心にかえる」など月ごとにゆるやかなテーマが決められ、1年365冊紹介されている。ジャンルは小説・エッセイ・実用書・ノンフィクション・児童書と多岐にわたり、1冊1冊に手書きのPOPが添えられているのがあたたかい印象だ。割合知られている本もあるが、「おお、さすが本屋さん！」と言いたくなるようなマイナーだがおもしろそうな本が多い。また、それぞれの本屋さんのMAPも付いており、特に都内はたくさん紹介されているので、気になるお店に行ってみるのもよいのではないだろうか。ふだん本を読まない人も読書家も、この本を読めばきっと「おっ、読んでみようかな」と感じる1冊に出会えるだろう。

図書館からのお知らせ

◆ 日曜日も開館しています！

開館時間：10時～17時

◆ レファレンスカウンターに
「レポート提出チェックシート」と
「引用文・参考文献の書き方」が
置いてあります。
ご自由にお取りください！